礼拝説教 Note　　2024/07/21

「憎まれっ子世に憚る？」

（ヨハネ　１５章１８―２５節）

1．世とあなたがた（イエスの弟子たち）（１８－１９）

（１）　もし、世があなたがたを憎むなら
　　➡あなたがたより先に、世が私を憎んだことを知っておきなさい。
（２）　もし、あなたがたがこの世のもの（世に属するもの）であったら
　　➡世は自分のもの（すなわち、あなたがた）を愛したでしょう。
（３）　しかし、世はあなたがたを憎む
（４）　なぜ？
　　➡わたしが、世からあなたがたを選び出したから
　　➡すなわち、あなたがたは、世のものではなくなったから

2．覚えておきなさい／思い出しなさい（２０）”remember”

（１）　何を？　　「しもべは主人にまさらない」という言葉を（13:16）
（２）　なぜ？　　世があなたがたを憎むから
（３）　だから、たとえ世に憎まれたとしても、「僕は主人にまさらない」　ことを覚えておきなさい。主人＝神様の方がこの世よりも上だよ。

（４）　もし、人々が私を迫害したのなら➡あなたがたをも迫害するでしょう
（５）　もし、彼らが私の言葉を守ったなら➡あなたがたの言葉も守るでしょ

　＊「人々」「彼ら」とは誰のこと？
　　➡世の人々、「迫害する」から「ユダヤ人たち」と考える人もいる

3．彼らが、これらのことをあなたがたに行う（未来形）（２１）

（１）　「これらのこと」とは？
　　➡「迫害」（２０）「憎む」（１８）
　　LB「世間の人は、私の弟子だというだけで、あなたがたを迫害します
（２）　私の名のゆえに「迫害される」
（３）　理由：私を遣わされた方を知らない
　①　彼らが（ユダヤ人たち？）、弟子たちを迫害したリ憎むのは、
　　「イエスを遣わした方」＝「天の父なる神」を知らないから
　②　もし知っていれば、そんなことはしないでしょう。
　③　なぜなら、父なる神が偉大だから　　➡「父は子にまさる」
　　２０節「しもべは主人にまさる」

4. ゆえに、彼らの罪については弁解の余地はない（22）

（1） もし、私が来て話さなかったなら

➡彼らには罪がなかったでしょう。

（2） しかし今

➡イエスが来て、彼ら（ユダヤ人たち）にイエスの教えを話した。

➡その結果、彼らの罪が示された。（律法主義を打破した）

➡だから、弁解の余地はない（言い逃れる道はない、言い訳できない

➡すなわち、彼らは罪に定められる。

5. 私を憎む者＝私の父を憎む者（２３）

（1） 「私と父はひとつ」

（2） 私を遣わされた人を憎むことにもなる

6. だとすると、彼らは私と父を憎んだことになる。（２４―２５）

（1） もし、私が他の誰も行ったことのないわざを行わなかったのなら

➡彼らには罪がなかった。

（2） しかし今

➡彼らは私のわざを見た。＝他に誰も行ったことのないわざを行った

➡LB「奇跡をはっきり見たにもかかわらず、私も父も憎んだ。」

➡ユダヤ人たちがイエスの癒しなどの奇跡の業を見て、憎んだ。

（3） 理由（２５）：彼ら（ユダヤ人）の律法の言葉の成就

① 「彼らはゆえもなくわたしを憎んだ」

② 参照：詩篇 35:19、69:4、109:3、119:161

③ LB「メシヤ（救い主）についての預言は、その通り実現した。」

メモ 世（コスモス）について聖書がいっていること

A) 神に敵対し、サタンの支配下にある領域（ヨハネ１４：３０）

B) この世の行いは悪しきものであり（ヨハネ 7:7、１ヨハネ 2:16-17）神の裁きの対象（１２：３１）

C) この世は、キリストと彼に従う者とを激しく憎む（15:18、17:14）

D) 同時に、世は救いの対象でもある。神は世を裁きから救うためにキリストをこの世に救い主として遣わされた。（3:16-17）

E) 世から選び出され、救われた者は、キリストにあって、世の悪の力に打ち勝つ者とされた（１ヨハネ 5:4-5）

F) 世に属する者ではなく、世から選び出された者（15:19、17:14・１６）

G) 世から取り去られた者ではなく、世に遣わされた者（17:15・18）

H) この世の欲と罪に対して死に、それらを十字架につけた者（ロマ 6:6、ガラ 6:14）

I) 世の光として生きるように（マタイ 5:14）